防コミの歩き方

BOSAI KOBE MIRAI

有備無患

さわやかな好天気に恵まれた11月21日、紅葉の六甲山を背景に清流住吉川の左岸沿いの広場で、防災訓練をおこないました。

平成15年に開設された住吉川東緑地は「防災広場」と呼ばれており、先の大震災を教訓にさまざまな防災上の要件を備え、訓練参加者に伝えていく大切な役割を担っています。

この付近は、昭和13年の阪神大水害では、住吉川の決壊により土石流に巻き込まれて家屋が流失し、一帯が土砂に埋もれました。また昭和20年には焼夷(しょうい)弾攻撃を受け、周辺の民家が多数焼失するという被害もありました。

さらに、街一帯の家屋が崩壊した16年前の大震災時、この場所は商業高校で、被害を免れた体育館は、多数の避難者が身を寄せ合い厳しい避難生活を送ったところでもありました。

この広場に立つと、土地に刻まれた災害の姿がさまざまに想起されます。

訓練は水道局東部センターの協力を得て施設概要の説明を受け、地下20数メートルの大容量送水管から汲み上げられる給水の取り扱いを体験しました。

次いで、東灘消防署の煙体験ハウスで真っ白な煙の中を潜り抜けることと、各種簡易担架の作り方を体得し、また、AEDと人形を使って救命訓練を実施しました。

バケツリレーは全員参加のもとに広場を縦断して実施し、小型動力ポンプの放水訓練では本山西分団の実演指導をいただきました。

このほか、広場に設けられたマンホールに簡易トイレが4基据えつけられ、災害時に使用できることや、広場の北隅にある築山は、土嚢(どのう)作りのために備えられた砂山であることを伝えるとともに、土嚢の作り方の指導もおこなわれました。

さらに、広場が災害時の救援基地となり、物資の集積所としての使命を帯びていることも伝えました。

訓練中、消防ヘリコプターが上空を通過した時には、これを迎えるように大輪のひまわりを中心に全員で輪を作りました。このひまわりは、復興を願い常に明るい方を目指し協力してきた歩みを象徴するものとして、作られたものです。

訓練について、東灘消防署の副署長さんの講評をいただいた後、炊き出し訓練のために本山西地域福祉センターに向かいました。その道中を利用し、避難誘導訓練もおこないました。

途中にある野寄公園の水害記念碑には「有備無患」の文字が刻まれています。70年前の建立ですが、この言葉をもって、この訓練の歩みの締めくくりとさせていただきます。

（本山第二小学校区防災福祉コミュニティ
会長　渡辺利信）